

つながる、ささえる、680万

# 連合救援ボランティアレポート

第10号  
2011年4月14日

| 1

16日から

## 宮城へのボランティア派遣を再開

すでに各構成組織にご連絡している通り、4月7日に発生した強い余震の影響を受けて派遣を中止していた宮城県の各拠点（仙台、一関）について、4月16日の第三陣から派遣を再開します。

余震によって、仙台と一関の拠点が共に停電・断水等の影響を受けたため、4/8日出発の第二陣については見送り、その後の対応を検討していましたが、その後復旧（仙台のガスは未復旧）し、受け入れ可能となりました。

被災地では依然として余震が続いていますが、現地での作業・活動にあたっては、引き続き安全を最優先に行っていきます。

## 古賀会長岩手入り ボランティアを激励

古賀連合会長は、12日に岩手県に入り、県内で活動する連合救援ボランティアの激励、地元議員との意見交換などを行いました。

この日、古賀連合会長は、花巻市の東和ボランティアセンターを訪れ、連合岩手の砂金<sup>いさご</sup>会長、小野事務局長らとともに、地元の市議会、県議会議員と意見交換を行いました。

砂金会長は、これまでに参加したボランティアが残したメッセージを紹介し、「ここに来なければわからない現実を目の当たりにした。けっぱれ（がんばれ）岩手！」などのいくつかの励ましのメッセージを読み上げ、これまでの活動への感謝の意を表しました。

古賀会長は「石巻（宮城）に入った際は、ボランティア派遣に対して現地の人から、こちらが申し訳なく思うほどの感謝を受けた。ボランティア参加者の中には、あまりに大規模な被害を前にして、自らの1時間、1日の活動がどれほど役に立つのか考えさせられると言う人もいた。しかし、その積み重ねこそが大きな力になることを痛感している。組織的・継続的に人を派遣できるのが連合の強みであり、これからも全力で活動にあたりたい」と決意を述べました。



地元議員と意見交換する古賀会長ら（12日・東和）

小野事務局長は「九州から北海道まで全国の仲間が器材等を含め自前で集まり、岩手復興のため力を発揮してくれている。地元で支えてくれる皆さんに感謝している。連合として、現地の社会福祉協議会と連携し、できる限りの協力をする決意である」と挨拶しました。

地元の議員からは「連合の災害派遣は常に行われているのか」などの質問が出され、古賀会長は阪神淡路大震災や新潟県中越地震の際の活動を紹介し、「連合には 680 万人の仲間がいる。人の力が必要なとき、連合はその力を発揮できる組織だと自覚している」と述べました。

最後に、砂金会長は、連合は政府からボランティア要請を受けたが、連合岩手にも震災の 3 日後に達増知事から直接に人的支援の要請があったことに触れ、全国でこうした行動の継続をお願いしたいと述べました。

その後、古賀会長らは釜石市に入り、活動中のボランティアを激励し、地元の被災者にも声をかけ、励ましの言葉を贈りました。その後、古賀会長らは宮古市に入り、ボランティア参加者らと共に夕食をとりながら、参加者の奮闘をたたえました。



家屋で活動中のボランティアを見守る古賀会長ら（12日・釜石）

## 活動レポート

### 福島

#### ●会津拠点（活動地域：会津若松市、いわき市）

【4/12】いわき市では、湯本地区 2 ヶ所の給水所で給水支援活動を実施。会津若松市では、支援センターでの物資仕分け、配布業務を実施。

【4/13】いわき市四倉町で、津波の被害を受けた稲田・水路の片づけ作業、いわき市湯本地区では給水所での給水支援作業を実施。



いわき市湯本地区での給水の支援（12日）

#### ◆お詫び・訂正◆

第9号(4/12発行)で、「岩手県バス協会が、がれき・家財などの撤去作業を行った時に着用した衣類や靴、帽子などについて、そのままバス車内に持ち込まないよう、ボランティアに要請しました」と掲載しましたが、その後、同協会ではそのような要請は行っていないことが判明いたしました。岩手県バス協会および関係各位、ボランティア参加者のみなさん、各構成組織・地方連合会に対し、ご迷惑をお掛けいたしましたことについてお詫び申し上げます。今後、正確な情報提供に注意してまいります。

なお、ボランティア活動時の服装等の扱いにつきましては、衛生対策の観点から現地対策本部で指示する場合がありますので、その際は指示に沿った行動をお願いいたします。